

郵便取扱の図



「郵便取扱の図」は、明治17年12月アメリカのニューオリオンズにおいて開かれた万国博覧会に、日本における郵便の取扱状況を紹介するため出品されたものです。

この「郵便取扱の図」は、14枚の駅遞局事務図として描かれており、農商務省博物局工芸課が柴田真哉（幕末から明治にかけて活躍した著名な漆工芸家の柴田是真の次男）に依頼して制作したものです。彼の日記によると、明治17年10月から11月にかけて江戸橋駅遞局や横浜郵便局の作業風景を実際に写生して制作しています。そのため、窓口風景、引受、消印、区分、差立等の内務作業、郵便物の輸送、収集、配達の様子など、画面の中から当時の郵便局の作業内容を詳しく知ることができます。

この時期、駅遞局（郵政省の前身）は、絵図の作成を依頼した博物局（博覧会関係を所掌する部分）と同じ農商務省の一部局でしたが、明治18年12月には内閣制度の創設に伴い、駅遞局に加えて官船、電信、燈台等の事務を管掌する逓信省に生まれ変わりました。

掲載写真は第10図で、雪中を走る郵便馬車と人車を描いています。馬車に翻る旗は、この当時の郵便旗です。

（表紙解説）

東海道五拾三次之内 川崎 六郷渡舟

川崎宿付近の六郷川（多摩川）の船渡しの様子が描かれている。ここには慶長5年（1600）に徳川家康が架橋した六郷橋があったが、元禄元年（1688）洪水で橋が流されてから船渡しとなった。宝永6年（1709）「民間省要」を執筆し、将軍吉宗の享保の改革に寄与した川崎宿問屋の田中丘隅の申し入れにより、六郷の渡船は川崎宿の永代請負となった。